

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400021		
法人名	株式会社 イクロス		
事業所名(ユニット名)	グループホーム アネックスパル		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2666		
自己評価作成日	2024年9月2日	評価結果市町村受理日	2024年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	2024年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出などは難しいが、利用者様が日々楽しんで過ごせるように色々なことを考えて行っています。その際には職員も一緒に楽しめるよう心掛けています。そして一日の中で大きな声を出して笑える場面が少しでもあるようにと考慮し支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、温泉街から少し離れた山間部に位置し、車の往来もなく静かな地にある。フロア内はテーブルや椅子の配置換えもしやすく、天窓からの採光もあって明るい空間作りがなされている。壁には利用者と一緒に作成した貼り絵などで四季を感じられるよう掲示している。新型コロナウイルス感染対策も講じながら、花見や町内の敬老会、認知症カフェの開催など徐々に活動を広げ、地域との交流も行いつつある。今月は、町内の祭りも開催予定で、子ども神輿や獅子舞を事業所に招く予定である。今年、外国人の職員を2名採用し、現在は夜勤もこなせるようになり即戦力となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目視できる環境下で意識しながら共有することで実践につなげています。	開所当初から掲げた事業所理念を玄関に掲示し、全職員が共有できるようにしている。管理者は配属されてから3年目になり、利用者が笑顔で過ごせるような事業所理念へ改めることを模索しており、職員間で検討したいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	前回同様地域の行事があまり開催されず難しい状況である、他部署との交流は認知症カフェなど利用しています。	地域に根ざした取組として、町委託の認知症カフェを年3、4回他部署の協力も得ながら開催している。参加者が少ないため、同じ取組をしている他事業所とも話し合い、行政にバスでの送迎をもらえるよう提案している。感染対策をしながら、町内の祭りに参加する予定をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町から委託の認知症カフェの開催をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、報告や意見を頂く機会としてサービスの向上に努めています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回法人内で開催している。家族や町職員、包括支援センターからも参加してもらい意見交換し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には相談などを通して関係作りに努めています。	町開催の研修会などで施設長が講師を務めることもあり、町との連携も密に取っている。地域の情報を得る機会も多く、サービス向上に活かすことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内や外部の研修で身体拘束について学んでおり、3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、内容を全職員に供覧することで身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	職員が研修に参加し、事業所内で伝達研修をしている。特に、スピーチロックに注意するよう、場面ごとの利用者の言動に合わせた職員の対応方法を作成し、フロアの壁に掲示して、身体拘束をしないケアを意識づけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内や外部への研修に参加し、高齢者虐待について学んでいる。部署内でも取り組み可視化することで意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けるようにしています。利用者に必要であれば、関係者と話し合いをもてるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分に説明し、改定時にも書面を用い説明して理解・納得して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時に近況報告を行い、意見や質問などがあれば聞けるように心掛け、運営推進会議や介護相談員の受け入れなどで外部からの意見を聞ける機会を設けています。	利用者の状況に変化があれば、その都度家族に報告し、居室内の環境を整える提案をし、了解を得て対応している。また、運営推進会議で報告し、参加者から意見を伺い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内会議や部署会議において、意見や提案を聞けるようにしており、それらを運営に反映させています。	管理者は、毎月開催の事業所内会議だけでなく、その都度職員の意見や提案を聞いている。2ヶ月に1回の社内会議では、事業所内会議で出た意見等も挙げて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加を進め、資格取得など個人のスキルアップに会社から補助をだし、向上心を持てる環境になるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに合わせた外部研修への参加や社内研修を2ヶ月に一度開催し、全職員が参加することで自己研鑽しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などに参加することでネットワークを広げ勉強会などで得た知識をサービスの質の向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より利用者本人の言葉に注意し、表現が難しい場合は表情など観察し、本人の安心を確保できるよう信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人を優先的に考え、その上で家族の不安や要望を聴き、利用者の支援につなげていくことで信頼関係が構築できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、本人・家族・関係者から情報収集し、必要としている支援を見極められるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりを理解し、暮らしを共にする者同士協力できる関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設だけの支援ではなく、本人と家族の絆を大切に思い、共に支えていけるように関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類に移行したとはいえ、まだまだ油断できる状態ではなく外出や訪問などが難しい状況の中でも、できる範囲で支援を行い、関係が途切れないように努めています。	法人内で感染者も出ているため、事業所内でも慎重に対応している。面会に来られる家族には、面会時間を30分間とし、居室入室いただいている。以前は、馴染みの理美容店まで家族の送迎で出掛けることもあったが、現在は、訪問理美容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、孤立することがないように、時には職員が間に入り関わりがもて支えあえる支援になるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了が殆ど死亡のケースであり、本人とは途切れてしまうが、家族とは町中で会うことがあるのでその際はお話します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり毎日の生活の中での会話や行動などから意向を把握できるよう努めており、困難な場合は表情などから把握できるよう努めています。	利用者の好みや意向を家族からも聞き取り、利用者自身の言動や表情からも汲み取るよう努めている。利用者に文字に触れる機会を持たせるため、想起しやすい言葉を文字にして、表情を読み取る工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族などから生活歴や暮らし方等色々と聴き把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の心身状態を様子観察し、変化に気づき現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを踏まえ、本人の望む生活になるよう職員間で話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に努めています。	利用者が暮らしやすい環境となるよう課題を整理し、話し合った上で計画書を作成している。全職員も把握し取り組めるよう努めている。作成した計画書については、来所時や郵送をして、家族の同意を得ている。	個人支援記録書に、利用者個々の短期目標を数字にして羅列し、全職員が確認しながら記録するよう促しているが、意識づけられていない状況である。計画書に即した支援を周知徹底できる取組を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個別記録を作成し、申し送りで情報共有し気づきを大切にそこから話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化するニーズに対応し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援ができるよう臨機応変に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前回と同様で行事やイベントなど少なくなっており難しい状況であるが、季節に応じた行事などを取り入れ楽しめるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の要望にてかかりつけ医を決定しており往診対応となっています。緊急時も主治医の指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるように支援しています。	2カ所の医療機関から利用者ごとに往診を受けている。週1回は訪問看護師の観察も受けしており、緊急時やその都度の相談に応じてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が来所し情報を伝えています。その他必要な時に連絡し、受診や訪問を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、直ちに利用者の情報を提供し、退院時にも情報収集できるように病院関係者との関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設入所の際、看取りについての事業所としての方針の説明は行っており、重度化した場合は家族様の意向を確認し、主治医からの説明の機会を設け同意して頂いた上で情報共有し、関係者と共にチームで支援できるように取り組んでいます。	事業所より重度化した場合や看取りについて説明し、家族より意向を確認している。主治医や訪問看護師とも情報共有し、その都度の指示を得たり救急要請するかの判断と指示を仰いでいる。現在も看取り期にある利用者があり、緊急時の対応について連携している。見守りロボットによるセンサーも活用しているが、夜間帯でも職員が各利用者の様子を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員参加による事故発生時に備えた研修を白浜消防署協力の下定期的を実施し、実践力を身につけるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、全職員・利用者も参加し、通報機器を使い実際に通報訓練も行っています。夜勤者も夜間を想定した訓練で確認しています。また、グループホームは、土砂災害警戒区域になっており、年1回避難訓練しています。	事業所は山間部にあり、津波被害の心配はないが、土砂災害警戒区域のため、法人内施設への水平避難訓練を行っている。災害と感染についてのBCPマニュアルも作成できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な視点から利用者一人ひとりを見て人格を尊重し、身体拘束の観点などからも意識した声掛けや対応を心掛けています。	排泄誘導時には、プライバシーに配慮した言葉掛けをしている。食事時も、一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けをしながら寄り添った介助を行っている。利用者と職員の相性も考慮し、職員を交替する配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を訴えられるように配慮し、自己決定できるように工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自身のペースで日々過ごすことができるよう支援し、希望は傾聴し沿った支援ができるように行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で決定できる事はしてもらい、一緒に行うとできる方とは共にし、定期的な訪問理容も利用しながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話で本人の好物を聞いたり、食べている時の表情などで確認したりして楽しんでもらえるように工夫し、利用者に応じてできる事をしてもらっています。	食事の好みを把握し、行事や季節に応じた献立を考え、レシピを参考にして職員が調理している。食事の際に利用者の表情を見て、次回の調理の参考にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録することで把握し、一日を通して摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じて口腔ケアを行ってもらい自身でされる方も時々確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導トイレで排泄できるよう支援しています。	利用者の排泄記録表を作り、オムツやポータブルトイレに頼らないケアに努めている。排便については、排便管理表を作り、一人ひとりに細やかな排便コントロールができるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や運動など予防に努め、難しい場合は主治医や訪問看護に相談し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務上週3回にしているが、それ以外でも本人の希望や体調に合わせて対応できる支援をしています。	週3回の入浴日以外にも状況や希望時に支援している。以前は、法人内施設の温泉に温泉ツアーと題してお弁当を持参し、入浴を楽しめる機会を設けていたこともあったので、今後、時機をみて再開を検討されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて支援し、寝具や室温の調整など安心して眠れるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬は正確に把握し、本人に応じた支援を行い、症状の変化にも注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた得意なこと、できることを見極め張り合いを持てるよう支援し、季節に応じたイベントやドライブなど気分転換になるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだ以前のように難しいが、できる範囲で行える事を考えて支援しています。	日常的な外出はできていないが、感染対策の万全を期し、花見やドライブに出掛けている。法人内にある東屋に、弁当を持参し、気分転換を図ることもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所も長期化となり、外出支援も難しくお金を所持することはなくなったが、小口現金は管理しているので必要であれば使用していただけます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙や電話などを訴えることはなく、家族様から電話があれば取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では不快な思いや混乱を招くことのないよう配慮しており、また季節に応じた作品を飾ったりし、居心地のよい空間となるよう工夫しています。	玄関からフロアまでの導線には、木目の三枚扉があり、開放感があり、掲示物もシンプルにまとめられている。フロアは、天窓もあって採光が充分にあり、外部からの騒音はなく、静かな共用空間作りがなされている。椅子やテーブルも配置転換しやすく工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では利用者様同士距離が保てるようにソファを配置し、自由に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとっての安全を優先した上で、馴染みのあるものなど家族様に用意してもらい居心地よく過ごせるように工夫しています。	各居室の床は、木目調で音を吸収しやすい材質となっている。壁は白く、窓は大きく採光が充分にある。利用者の馴染みの物を配置し、居心地良い工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、その情報から安全を考慮し自立した生活が送れるよう工夫しています。		